

木野通信 KINO PRESS

KINO PRESS Issue 61 | 京都精華大学広報誌

木野通信

京都精華大学
MAY. 2014 Issue 61



巻頭特集 学長インタビュー

学長・竹宮恵子の理想とする大学

61
号

特集 01 FEATURES 01

- 04 巻頭特集 学長インタビュー
学長・竹宮恵子の理想とする大学

特集 02 FEATURES 02

- 11 2015 年、人文学部の学びが進化する。

大学ニュース NEWS

- 14 ポピュラーカルチャー学部校舎「友愛館」が完成／京都精華大学 45 周年記念事業 ダライ・ラマ 14 世講演会レポートページが公開／ストーリーマンガコース卒業生、教員の作品が続けて映画化決定 ほか

連載企画 REGULARS

- 20 在学生による授業紹介 第 1 回 デザイン学部建築コース「建築材料演習」
教員のブックレビュー ポピュラーカルチャー学部 蘆田裕史が選ぶ「薬学部にいた僕の進路を変えてしまった」本
セイカ事典 や行
22 イベント紹介 アセンブリーアワー講演会
デザイン学部建築学科・連続レクチャーシリーズ「2014 年前期プログラム 可能性の空間 [空間論演習 2]」
デザイン学部・デザイン研究科教員 石川九楊連続 [公開] 講座
京都精華大学オープンキャンパス

京都精華大学とは

京都精華大学は表現の大学です。2013 年 4 月にポピュラーカルチャー学部を開設。さらに、デザイン学部にはイラスト学科、マンガ学部にはギャグマンガコース、キャラクターデザインコースを新設しました。ポピュラーカルチャー、芸術、デザイン、マンガ、人文あわせて 5 学部編成となり、新しい文化と社会を創造する人材育成をさらに進化させていきます。

京都精華大学 学部・学科・コース

■芸術学部

◎造形学科

洋画コース／日本画コース／立体造形コース

◎素材表現学科

陶芸コース／テキスタイルコース

◎メディア造形学科

版画コース／映像コース

■デザイン学部

◎イラスト学科

イラストコース

◎ビジュアルデザイン学科

グラフィックデザインコース／デジタルクリエイションコース

◎プロダクトデザイン学科

プロダクトコミュニケーションコース／ライフクリエイションコース

◎建築学科

建築コース

■マンガ学部

◎マンガ学科

カートゥーンコース／ストーリーマンガコース

マンガプロデュースコース／ギャグマンガコース

キャラクターデザインコース

◎アニメーション学科

アニメーションコース

■ポピュラーカルチャー学部

◎ポピュラーカルチャー学科

音楽コース／ファッションコース

■人文学部

◎総合人文学科

巻頭特集 学長インタビュー

学長・竹宮恵子の理想とする大学

少女マンガ界に变革を起こした作家であり、大学におけるマンガ教育の第一人者。創作と教育、ふたつのフィールドで新しい世界を切り開いてきた竹宮恵子が2014年4月、京都精華大学の学長に就任した。打ち出したのは、原点回帰と「大学で学ぶ意味」を感じられる教学改革。精華に来て14年の歩みと、新学長としての考えをじっくり聞いてみた。

text by MATSUMOTO Hajimu, photographs by ARIMOTO Maki

「京都精華大学学長に竹宮恵子氏」。昨年の冬、就任決定のニュースは各紙で大きく報じられ、就任前にはさまざまなメディアがインタビューを通じて、その人となりや考え方を伝えた。まだ珍しい女性学長であること、何よりも、誰もがその名を知る現役のマンガ家であることが注目された理由だろう。

しかし、竹宮はただ話題作りのために外部から招聘された。お飾り学長とは違う。2000年、マンガ学科開設と同時に教員として赴任。06年にマンガ学部ができる。08年からは学部長となり、制作から研究にわたる精華のマンガ教育を先頭に立って一から構築してきた。その実績と経験から全学選挙で選出された。このことの意味は大きい。

マンガ家としての竹宮の歩みを振り返っておこう。

デビューは精華の開学と同じ1968年。70年代に入ると才能が一気に開花し、野心的な傑作を次々と発表する。「ファラオの墓」では古代エジプトを舞台とした架空戦記を、『風と木の詩』では少年の同性愛を耽美的に描いて、マンガ界に衝撃を与えた。少年誌に連載したSFファンタジーの『地球へ』は後世に残る名作の呼び声が高く、2000年代に入ってテレビアニメ化された。

歴史や神話、音楽、SF、ヨーロッパ的耽美主義……。幅広い題材とテーマ性を持ち込み、戦後少女マンガの表現の可能性を広げた創作活動は、一時期同居して切磋琢磨した萩尾望都氏らとともに（生まれ年の「24年組」と呼ばれ、日本マンガ界の歴史の1ページを燦然と飾っている。

表現者として一時代を築いた竹宮だが、では教育者としては何を思うか。就任時に学内の教職員に向けて発した所信表明では次のように語っている。

（今再び、京都精華大学は創設期に必要な熱意と努力を思い起こし、現在の事情や状態を切り離して、何も持たなかった頃の工夫や努力を今一度講じなければなりません。大学の構成員すべてが、必要な変革に向けて考え、動き、求めに応じて意識を変えていかなくてはならない時が来ています。）

つまり、原点に立ち戻る改革。その意図はどこにあるのだろう。それをあらためて聞いたのが、このインタビューである。

精華のマンガ教育を構築するまでの工夫と努力。取り戻すべき大学教育の意義。京都精華大学と、そこで学ぶ学生への期待。柔らかな親しみやすい語り口の中に、確固たる信念が満ちていた。

「京都精華大学学長に竹宮恵子氏」。昨年の冬、就任決定のニュースは各紙で大きく報じられ、就任前にはさまざまなメディアがインタビューを通じて、その人となりや考え方を伝えた。まだ珍しい女性学長であること、何よりも、誰もがその名を知る現役のマンガ家であることが注目された理由だろう。

しかし、竹宮はただ話題作りのために外部から招聘された。お飾り学長とは違う。2000年、マンガ学科開設と同時に教員として赴任。06年にマンガ学部ができる。08年からは学部長となり、制作から研究にわたる精華のマンガ教育を先頭に立って一から構築してきた。その実績と経験から全学選挙で選出された。このことの意味は大きい。

マンガ家としての竹宮の歩みを振り返っておこう。

デビューは精華の開学と同じ1968年。70年代に入ると才能が一気に開花し、野心的な傑作を次々と発表する。「ファラオの墓」では古代エジプトを舞台とした架空戦記を、『風と木の詩』では少年の同性愛を耽美的に描いて、マンガ界に衝撃を与えた。少年誌に連載したSFファンタジーの『地球へ』は後世に残る名作の呼び声が高く、2000年代に入ってテレビアニメ化された。

歴史や神話、音楽、SF、ヨーロッパ的耽美主義……。幅広い題材とテーマ性を持ち込み、戦後少女マンガの表現の可能性を広げた創作活動は、一時期同居して切磋琢磨した萩尾望都氏らとともに（生まれ年の「24年組」と呼ばれ、日本マンガ界の歴史の1ページを燦然と飾っている。

表現者として一時代を築いた竹宮だが、では教育者としては何を思うか。就任時に学内の教職員に向けて発した所信表明では次のように語っている。

（今再び、京都精華大学は創設期に必要な熱意と努力を思い起こし、現在の事情や状態を切り離して、何も持たなかった頃の工夫や努力を今一度講じなければなりません。大学の構成員すべてが、必要な変革に向けて考え、動き、求めに応じて意識を変えていかなくてはならない時が来ています。）

つまり、原点に立ち戻る改革。その意図はどこにあるのだろう。それをあらためて聞いたのが、このインタビューである。

精華のマンガ教育を構築するまでの工夫と努力。取り戻すべき大学教育の意義。京都精華大学と、そこで学ぶ学生への期待。柔らかな親しみやすい語り口の中に、確固たる信念が満ちていた。

手探りで確立した指導法

——まずは精華に赴任された頃の話からうかがいます。全国で初めてマンガ学科が創設された2000年、今から14年前のことですが、当時から後進を育てたいという思いをお持ちだったのでしょうか。

「マンガ学科をつくるから来ないか」という話をもらったのは、ちょうど長い連載が終わりかけていた頃だったんです。9年かな、単行本で24巻になった『天馬の血族』という作品。それを3月ぐらいに終えるつもりでいたところへ4月から就任の話が来て、「あ、これはもう行けてことだな」と背中を押された感じですね。

以前から「教えたい」と思っていたわけではありません。マンガ家って連載を抱えていると、ほかのことを考える余裕がないんですよ。ただ、当時の若手の人気作品を読んだり、新人賞の選考に携わったりする中で、ちょっと気になることがあった。マンガのオースドックスが崩れ始めているな、と感じていたんです。

基本的に不向きなんです。最初の頃の実習では、間仕切りで個別の空間を作って描かせたりもしました。

—— だけど結局は、全員が一堂に会して——以前は40数人、いまは70人——それぞれの作品を描く形が定着していった。クラス分けもありません。実習室には教員が4人いて、全員にできるだけ同じ頻度で声をかける。誰かがアドバイスを受けているのを、周りの学生たちがなんとなく耳にするだけでもいいんです。「あの時、先生が言っていたのはこういうことか」と、後々気づけばいい。

とにかく、学生が「マンガ学科を卒業した」と言えるようになるにはどうすればいいかを考え続けてきました。指導方法がしつかり固まったのは、2006年に開設されたマンガ学部の4年間がひと巡りしてからです。

——やはり10年かかったということですね。そこで改めてうかがいたいのは、マンガを大学で学ぶことの意義なんです。

それも学生に聞いたことがあるんです。「表現方法はたくさんあるのに、なぜあなたたちはマンガを選んだの？」と。みんなが口々に言うのは、「文字や音楽

オースドックスとは、手塚治虫先生や石ノ森章太郎先生、藤子不二雄先生といった方たちが築いてきたマンガの約束事ですね。コマ割りや画面構成、セリフや吹き出しの入れ方、作画の技法やキャラクター造形まで、基本的だけど重要な表現上のルールがいろいろあって、それがどうも若い描き手に伝わっていないんじゃないかと。本来は、さまざまな作品を読み込むうちに自然と学んだり、編集者に教わったりするものですが、マンガ業界の中にそういうことを教える人も機会もなくなってきたんです。

わたし自身は手塚先生や石ノ森先生から大きな影響を受けたオースドックスなタイプ——どうやって、そこからはみ出そうかと苦しんだぐらい——のマンガ家ですから、これはなんとかしたほうがいいと思った。それで、お話を受けることにしたわけです。

—— 大学で本格的にマンガを教える前例がほとんどなく、しかも学科として独立するわけでは

から、大変なご苦労だったと思います。教え方を確立するまで10年しかかると考えたそうですね。

引き受けたのはいいんですけど、決まっていたのは「制作実習」や「脚本演習」といった講義名と授業時間などの枠組みだけ。何をどうやって教えていくかは——から手探りです。一期生と4年間向き合っていく中で、彼らの反応や要望を聞き、その都度、改善していくようにしました。

たとえば、マンガ原稿というのは「版面」を意識しないといけない。本に綴じた時、あるコマが左右どちらのページに来るか、絵が本の綴じに入って隠れてしまわないか、大事な部分が切れないか。プロのマンガ家は常に意識して描いていますが、学生にその感覚はなかなかかわからない。だから、いろんな先生が口々に伝えるんですが、ある時、学生に聞き取りをするので耳タコだ。時間ももつたいたい」と言うんです。もちろん大事なことは何度も繰り返せばいいんですけど、そういう声が上がるのであれば、誰がいつ、どのタイミングで伝えるか、交通整理をしておいたほうがいい。

ほかに、セリフの行の頭は

題意識を探り、それを人に伝える方法を模索することで、さまざまな表現方法が身につく。それを今後の人生に活かすことができるんです。

—— 先生の場合は20歳過ぎの頃、萩尾望都先生と同居していた「大泉サロン」の時代がありました。が、やはりそんな感じでしたか。そうですね。わたしはさっきも言ったとおりオースドックスなタイプですから、イラストやカラーリングも得意で、たくさん数をこなしていました。「仕事」としてマンガを描いていくことに、あまり不安はなかったんです。

ところが、萩尾さんという人はとても独特な感性と文学的な

揃える、吹き出しは誰の言葉かわかりやすく描く……といったことから、ペンの使い方の基本まで。プロの描き手である教員からすれば、そんなことが知りたかったのか……と驚くこともある。そういうことを一つひとつ持ち寄って調整するために、教員全員で合宿をして話し合ったこともありました。

マンガ学部の実習風景

—— 学生が知りたいことと、教員がこれだけは伝えたいと思うこと。両方を汲み取りながら授業内容を固めていった、と。しかし、その伝え方も難しいでしょうね。

マンガって、やっぱり一人で考えて手を動かす孤独な作業ですから、教室での講義や、みんなで集まって実習をするのには志向を持っていて、それまでのマンガとは全然違う発想や方法論で描いていた。目の覚めるような驚きと刺激がありましたね。最初に彼女の作品を読んだ時、女性だと思わなくて「わたし、この人と結婚する！」と思ったぐらい（笑）。

大泉サロンには、たくさんのマンガ家や編集者、それにファンも出入りしていましたから、その中でマンガ論を語り合ったり、いろんな知識を教わったり、読者の声を聞いたりすることもできた。わたしは大学では教育学部で、それも途中で辞めていますから、マンガや表現について学ぶ意味では、あの大泉サロンは貴重な経験でした。それが後の創作に活きたことは間違いないと思います。

—— そうしたご自身の経験も踏まえて、精華のマンガ教育を確立されたわけですが、今度は全学部を代表する学長になられました。まず、精華をどんな大学だと見ておられますか。

やっぱりマンガという反骨・

大学は自由と自立の場所



反権威の表現を取り入れようという大学ですから、柔軟というが、既成の権威にとらわれない自由があって、教員も職員も学生もそういう人たちが集まる場所だという印象は最初からありました。

わたしは大学を途中で辞めたので、1970年前後の大学紛争以降、全国の大学から自由や関連性がすっかり失われてしまったことをずいぶん後になって知ったんですけど、精華には、わたしの理想とする大学像が残っているような気がします。それは、「自由自治」の理念がいまも生きているということなのかもしれません。

——ただ、一方で、所信表明でも述べておられたとおり、大学教育が岐路に立っているとされます。精華に限った話ではありませんが、成果主義やグローバル化が強調され、就職予備校のようになり、学生もすっかりこじんまりしてしまつたと嘆く声も聞かれます。

最近の学生がおとなしくなつたというのは、たしかにあるかもしれませんが。大人社会と同じような「勝ち組・負け組」の価値観が根強くあつて、そこから大きく外れようとする。自立し就職したいな考えになつてしまつていくのでは、というふうな

まっている。それは彼ら自身の問題もあるのでしょうが、やはり時代や社会、とりわけ親の影響が大きい。小中高を通じて、大人のコントロールが効きすぎているんだと思います。

大学というのは、そうした大人の価値観や世間の常識といった縛りからいったん離れて、自由になる場所です。どこにも属さない「一人」になって、自分の内面と向き合い、さまざまな人や物事に触れ、自分の足で立てる人間になるための時間であるべきなんです。そのためだけに大学はある、と言ってもいい。

一人になることはすごく不安です。失敗して転んでしまうことだってある。でも、その不安や失敗こそが人を立たせてくれる。ですから、わたしは自分の授業では、できるだけ常識や既成の発想のタガを外すよう学生に促しますし、ほかの学部や授業もそうあつてほしいと思います。

——先ほどのマンガの話で言えば、オールドックスを学びつつ、それにとどまらない発想を持つということでしょうか。

技術的な面でオールドックスを守るのには大事なことです。わたし自身その意味でオールドックスなマンガ家ですが、人と違

み取る学び」とは、そういうものだと思うんです。講義形式が中心になる学部やコースでも、そういう形の演習授業ができるように、いま取り組みを進めているところです。

あらゆる作品に通じるとは思いますが、一枚の絵や一編の作品を完成させるには、さまざまな面で自分を律していかなければなりません。どんな小さな作品であっても、自分の内面や、あるいは人や社会との関わりの中から、問題意識や表現したいことを見つけ、いろんな意見や考え方を聞き、たくさんの紆余曲折を経て、完成を見るんです。それができるといことは、社

う点があつたとすれば、自分の中に抜き難い「信念」といふべきもの。作品のテーマ性に関わる部分です。世間が正義や良識だと言うことに対して「ほんとうにそうなのか」と疑う気持ちがある。背德的だと非難されることの中にも真実はあるんです。それをなんとかして伝えたい、世に問いたいと考えてきました。物事を一つの方向からだけ見て、決めつけてしまうことを「許せない！」という正義感というか、自分でも抑え難い激しい感情があるんですね。

——所信表明では、自由自治の精神とともに、教員と学生の一体感を取り戻すこと、それによって「大学で学ぶ意味」を感じられる教学改革を、と訴えておられます。

ひと言で言えば、いま以上に学生と長い時間を一緒に過ごすということ。講義をこなすだけになっていないか、文科省の示す方針やガイドラインに縛られるばかりの授業内容になっていないか。すべての教員が見つめ直し、改革に取り組んでほしい。

先ほどマンガ学部の制作実習の話をしました。あの実習は3〜5時限まで270分ぶつ通して行われます。その間、70人の学生と4人の教員が同じ空間にずっといて、聞きたいことがあればいつでも質問できる。教員はすべての学生の制作を見て回り、それぞれにアドバイスや意見を伝える。同じ学生の同じ作品に対して、先生によって違うことを言うこともよくあります。でも、それでいいんです。さまざまな見方や選択肢が示された時、何を選び取るか、どう受け止めて自分の中に取り込んでいくかは学生自身が決める。単に「教え込む・覚え込む」ととは異なる、「自分の手でつか

建学の原点を思い出す時

会に出ても、何か問題が起きれば自分の頭で考え、自律的に処理することのできる人間になっているということ。プロの作家やクリエイターを目指すにしても、そのためにしばらくアルバイトをして過ごすにしても、あるいは就職の道を選ぶにしても、自分に責任を持つて、主体的に選択できる人であつてほしい。自分はこの道で行くんだと、はっきり言える意志を

ね。京都精華大学は、学生が自由に学び、自立した人間になるための場を保障する。そして、教員も職員も学生も一体になって社会に向かう。1968年の建学の原点を、いま一度思い出すべき時だと、わたしは思っています。

2015年、人文学部の学びが進化する。

2015年4月より、京都精華大学人文学部が新たなカリキュラムに生まれ変わる。人文学の学びをより社会に発展させていくカリキュラムによって、人間と社会に対する深い考察力と、それを自らの人生や社会に還元させる力を身につけることを目的としている。

新・人文学部の特色

01 「文学」「歴史」「社会」の専攻を軸に、人文学の学びを深める

主専攻の学びを軸に、他専攻と関わりながら多角的に人間と社会のあり方への理解を深める。文学作品に描かれた人間の思想やあり方、史料に残された人間の行動や心理、アンケートや調査などから暴かれる現代を生きる人間の心理などを追究し、人間と社会の本質を探る。

02 自己と社会の関わりを発見し、社会実践力を身につけるプログラムを設置

すべての専攻の学生が取り組む「社会とつながるプログラム」を1〜3年次に必修科目として設置。自分と社会とのつながりを自覚し、どう関わっていくかを体験的に学ぶ。それにより、専攻で身につけた人間を深く理解する力を社会に活かしていく力を身につける。

03 3年次の半年間は、キャンパスを離れて現場で学ぶ

「社会とつながるプログラム」の一つで、3年生前期に置かれる「現地演習」では、半年間キャンパスを離れ、国内外の演習地にて学ぶ。2〜3ヶ月間の語学・文化研修と、約1ヶ月の企業やNGOでのインターンを予定。異文化のなかに身を置きながら学ぶことで、人間の多様性を知ることや、新たな視点の獲得を目指す。

TAKEMIYA Keiko's Career

竹宮恵子経歴



京都精華大学 学長
マンガ学部ストーリーマンガコース教員

1950年徳島県生まれ。67年、『COM』（虫プロ商事）に「このつゆの友情」を投稿し、月例新人賞に佳作入選。68年、『週刊マーガレット』（集英社）の新人賞に佳作入選した『リンゴの罪』でデビュー。代表作『風と木の詩』『地球へ...』で小学館漫画賞受賞。両作品は共にアニメ化されている。また、少女マンガだけでなく少年マンガや企業マンガなど様々なジャンルで活躍。2000年4月より、京都精華大学芸術学部マンガ学科（現・マンガ学部マンガ学科）の教員に。マンガ教育の確立に尽力してきた。また、文章では理解しにくい情報をマンガで描く「機能マンガ」や、後世に伝えるために史料性が高く、極めて原画に近い複製を制作するプロジェクト「原画（ダッシュ）」の活動などを行っている。

《受賞歴》

- 1968年 『リンゴの罪』 マーガレット新人賞佳作
- 1968年 『かぎッ子集団』 COM 月例新人賞
- 1978年 『地球へ...』 日本SF大会星雲賞
- 1980年 『地球へ...』『風と木の詩』 小学館漫画賞
- 2001年 AVON Awards to Women 功績賞
- 2012年 日本漫画家協会賞文部科学大臣賞

《代表作/掲載年》

- 『風と木の詩』 1976～84
- 『地球へ...』 1977～80
- 『私を月まで連れてって』 1981～86
- 『イズパローン伝説』 1982～87

代表作ピックアップ

『風と木の詩』

（1976年）週刊少女コミック10号より連載スタート。途中、プチフラワー1に変わり1984年6月号まで連載された。



© 竹宮恵子

期の少年の間に生まれる純粋な愛を描いた作品。ベッドシーンから始まるなど、当時の少女マンガ誌がタブーとしてきた性交渉、レイプ、同性愛、近親相姦といった描写が取り入れられたことから、読者に大きな衝撃を与えた。少女マンガの歴史を変えた作品。

『地球へ...』

（1977年から1980年まで）月刊マンガ少年にて連載



© 竹宮恵子

出生から成長、死に至るまですべて、人類がコンピュータによ

研究

「原画（ダッシュ）」



竹宮を中心とした京都精華大学・国際マンガ研究センターとの共同研究。

「原画（ダッシュ）」とは、退色しやすいデリケートなマンガ原稿の保存と公開を両立させるべく開発した精巧な複製原画。描線の濃淡や色彩の階調など微妙な細部まで再現し、原画と並べても見分けがつかないほどの精度をもつ。

「機能マンガ」

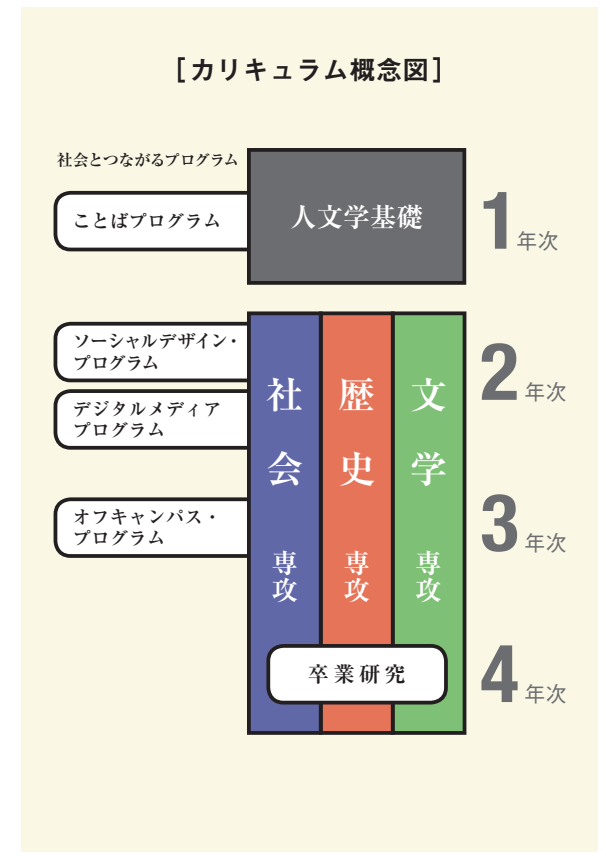


竹宮が提唱する、社会事象・問題をニュートラルに整理・伝達する役割を果たすマンガ。京都大学との共同プロジェクト「京大マンガ制作」、神戸大学との共同研究「アスベストマンガ制作」などの実績がある。社会問題や学術研究、医療技術など、専門性が高いあまり一般的に理解が難しい題材をマンガで明確かつ公平に伝えることで、マンガの果たす社会的役割の可能性を模索する取り組み。

自立した考えと行動力で新しい社会を創造する人材を育成

人文学の学びは、「人間の尊厳とはなにか」「私はどう生きるべきか」という根源的な問いに自身の答えを見出すことを可能にする。そして、個人の集合体である身近なコミュニティや社会全体の問題をも幅広い視点とアイデアで解決していく力となる。これら力を身につける新・カリキュラムによって、社会全体の問題を自分自身の問題ととらえる視点を持ち、従来の価値観に依存しない自立した考えと行動力で、新しい世界をつくる人材を育成することを目指す。





専攻

1年次に「哲学」や「人文学概論」にて人文学の基礎を身につけ、2年次より各専攻に分かれて専門領域を学ぶ。

文学専攻

日本文学すべてが研究対象。文献研究を通してことばや文学作品を読み解き、そこから人間の本质や新たな価値観を追究する。

歴史専攻

日本の歴史全般が研究対象。史料文献の調査や現地調査の手法を用いることで歴史への理解を深め、人間と社会のあり

**オフキャンパス・プログラム
(現地演習)**

3年次の前期に取り組みプログラム。世界10カ国から、北海道、京都、沖縄などの国内まで、多彩な演習地から自分の興味のあるプログラムやフィールドを選択。「語学・文化研修」と「企業やNGO/NPOでのインターンシップ」を組み合わせたプログラム等に参加する。半年間、異文化のなかに身を置きながら学ぶことで、人間の価値観の多様性を知ることや、新しい視点の獲得をめざす。

「身につく力」

異文化を理解する力／専門を探究・展開する力／課題解決のための実践力

新任教員

現人文学部教員に加え、新たに3名の教員が就任する。佐々木氏、白井氏は2015年度に、兼松氏は2016年度に就任。今後さらに、文学、歴史学の研究領域を専門とした教員が就任する予定。

白井 聡 SHIRAI Satoshi



担当科目
「現代社会と思想B」「社会思想」「社会学概論」ほか

東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。一橋大学大学院社会学研究科総合社会学専攻博士後期課程単位修得退学。博士(社会学)。主にロシア革命の首謀者であるレーニンの政治思想をテーマとした研究を手掛けてきたが、ポスト3.11という視点から日本現代史を論じた『永続敗戦論——戦後日本の核心』(太田出版)により、第4回いける本大賞を受賞(2013年)。著書に『未完のレーニン』(講談社、07年)、『物質』の蜂起をめざして(作品社、10年)。

佐々木 中 SASAKI Ataru



担当科目
「哲学概論」「哲学」ほか

東京大学卒業、東京大学博士(文学)。『定本 夜戦と永遠—フーコー・ラカン・ルジャンドル』(河出文庫、2011年)、『切りとれ、あの祈る手を—(本)と<革命>をめぐる五つの夜話』(河出書房新社、10年)、『晰子の君の諸問題』(河出書房新社、12年)、『夜を吸って夜より昏い』(河出書房新社、13年)、『踊れわれわれの夜を、そして世界に朝を迎えよ』(河出書房新社、13年)等、著作多数。

兼松 佳宏 KANEMATSU Yoshihiro



担当科目
「社会創造演習」「ICT・メディア演習」

1979年生まれの勉強家 兼 お父さん。WebデザイナーとしてNPO支援に関わりながら、「デザインは世界を変えられる?」をテーマに世界中のデザイナーへのインタビューを連載。2006年クリエイティブディレクターとして独立し、ソーシャルデザインのためのヒントを発信するWebマガジン「greenz.jp」の立ち上げに関わる。10年より編集長。著書に『ソーシャルデザイン』、『日本をソーシャルデザインする』など。秋田県出身、鹿児島県在住。一児の父。

実践的な手法を身につける。

**ことばプログラム
(ことば演習)**

ことばを通じて、人文学を学ぶ上での基礎となる思考力を身につけるプログラム。

「身につく力」

自分の考えを深める力／考えをことばで表現する力／ことばで他者に伝える力

**ソーシャルデザイン・プログラム
(社会創造演習)**

社会の仕組みを変えたさまざまな事例について学び、少人数のグループワークや、身近な事象をテーマにした演習を通して実践力を身につける。

「身につく力」

自分と社会のつながりを発見する力／問題を発見し、解決に導く力

**デジタルメディアプログラム
(ICT・メディア演習)**

社会に働きかけていくために必要なデジタルスキルを身につけるプログラム。自分で情報発信を行い、人と人をつなぐためのメディアを立ち上げ、運営していく知識やスキルを習得する。

「身につく力」

メディアの知識／情報発信するためのデジタルスキル

想定される進路

各専攻で身につけた人文学的知見と、「社会とつながるプログラム」にて身につけた実践力によって、自ら社会を変革する人材育成を目指す。

文学専攻

- 本に関わる仕事に就く
- 独自のセレクトで新作・古本を紹介、販売する書店を経営する。
- 子どもに絵本の読みかきせを行うNPO法人で働く。
- 図書館の少ない地域をまわる移動図書館を運営する。
- ことばに関わる仕事に就く
- 広告代理店のコピーライターとして企業のメッセージをかたちにする。
- 地元の活動を広める企業で、情報誌を制作・発行する。
- 中学校、高等学校で教員としてことばの役割を教える。

歴史専攻

- 文化や歴史を研究・紹介する仕事に就く
- 旅行代理店で、京都の史跡めぐりツアーを企画、案内する。
- 中学校や高等学校の教諭として歴史のおもしろさを教える。
- ボランティアを集めて文化財の保護を遂行するNPO団体を立ち上げる。
- 文化を理解し、新しい価値観を提案する仕事に就く

社会専攻

- 身近な地域や社会を豊かにする仕事に就く
- 待機児童の問題に取り組むNPO法人で働く。
- 高齢者が暮らしやすい設備が整った新たな住宅エリアと住居を企画、販売する。
- 自治体や企業で、太陽光パネルによる自家発電に地域で取り組むプロジェクトを行う。
- 世界の問題を解決する仕事に就く
- アジアの伝統的な染織品を使った衣類や小物を日本で輸入販売する。
- 海外の小さな村で語学教育を受けられる仕組みとサービスをつくる。
- 天災で被害を受けた村が自立するまでの仕組みづくりをサポートする会社をつくる。
- 取得できる資格
- 中学校教諭一種免許状(国語・社会)
- 高等学校教諭一種免許状(国語・地理歴史・公民)
- 図書館司書
- 博物館学芸員

ポピュラーカルチャー学部校舎「友愛館」が完成



友愛館 外観



音楽コース 録音スタジオ



ファッションコース 制作スペース

2014年春、ポピュラーカルチャー学部の校舎「友愛館」が竣工した。地下2階、地上3階建てで、音楽・ファッション両コースの実習室が入る。

音楽コースの録音スタジオは、音楽プロデューサーの故・佐久間正英氏（2014年1月まで本学教員）が設計に携わり、「良い音を実際に体験し、知る者こそ、本当に良い音楽をつくり込むことができる」という氏の哲学を受け継いだ、国内最高レベルのスタジオが完成した。例えば、ドラムの低音をしっかりと反響させて録音ができるよう、重みのあるアンティークのレンガが周辺に積まれるなど、随所に音づくりにこだわりの垣間見える。

ファッションコースには、学生一人ひとりに個人の制作スペースを用意されており、いつでも制作活動に打ち込むことができる。なお、プロ仕様の工業用マシンや特殊マシン、さらに一体ごとに肩幅、ウエストなどが少しずつ異なるトルソーも用意されており、様々な体型に合わせた服づくりが可能となっている。

また、友愛館の最上階には約500人収容の多目的ホール「Agora」があり、講演会のほか、音楽ライブやファッションショーも開催することができ。音楽・ファッションを追求するための最高の環境がここに実現した。

ストーリーマンガコース
卒業生、教員の作品が続けて
映画化決定

マンガ学部ストーリーマンガコース卒業生でマンガ家の榎屋克優さんの作品『日タロック』の実写映画化が決定した。『日タロック』は、冴えないロックミュージシャンの熱い青春を描いた音楽マンガ作品。現在『週刊ヤングジャンプ』で好評連載中。2014年秋に公開が予定されている。

また、同時期にはマンガ学部マンガプロデューサーコース卒業生の金城宗幸さん原作『神さまの言うとおり』の映画公開もあり、卒業生作品が立て続けに劇場で見られることになる。

さらに、マンガ学部ストーリーマンガコース教員でマンガ家のさそうあきらの作品『マエストロ』と、マンガ学部客員教員でマンガ家の東村アキコ作品『海月姫』の実写映画化も決定。音楽マンガ作品の『マエストロ』は『マエストロ!』のタイトルで2015年に、コメディ作品の『海月姫』は2014年12月に公開が予定されている。

『日タロック』

監督・入江悠

出演・野村周平、二階堂ふみほか

公開・2014年秋

京都精華大学45周年記念事業
ダライ・ラマ14世講演会レポートページが公開

昨年11月、創立45周年記念事業として開催された、ダライ・ラマ14世を招いた講演会のレポートがWebサイトで公開された。

「世界を自由にするための方法」と題し開催された2日間の講演会には延べ7000名の申し込みがあり、学生、教職員のほか一般を含め約3000名が参加した。両日とも参加者とダライ・ラマ14世との対話の時間が多くとられ、生きるということ、そして人間という存在について共に考える機会となっただけでなく、これ



講演を行うダライ・ラマ14世とよしもとばなな氏

京都精華大学創立45周年記念
ダライ・ラマ14世講演会レポートページ

http://www.kyoto-seika.ac.jp/1968+45/lecture_report/

【掲載内容】

- 11月23日・24日両日の講演会記録映像およびテキスト
- ダライ・ラマ14世、よしもとばなな氏へのインタビューテキスト

からの時代に何を考え、何をすべきかに対する方向性を提示する場ともなった。

なお、講演会時に寄せられたチベット教育支援のための募金は、総額93万7810円。募金はダライ・ラマ法王日本代表部事務所を経由し、チベット亡命政府に送金、チベット教育支援のために活用される。

生の形状、機能的で長期間メンテナンスが不要な素材の採用など、細部まで考え抜かれたデザインとなっている。また、皆がそれぞれに呼び、好きに使える自由度の高い空間になれば、と名称はあえてつけられていない。屋外での授業や作品展示空間などに利用してもらうことを想定しており、学生でにぎわいを増す新学期にオープンしたこの広場は、さっそく昼食や休憩場所として使用されている。



右：学生によるプレゼン資料

左：完成した広場



学生食堂がある悠々館横に、デザイン学部建築コースの学生がデザインした広場が完成した。これは在学生の保護者で構成される教育後援会からの寄付500万円を受けて2013年度に制作されたもの。学生の多様性を象徴する場所となることをコンセプトにつくられた広場には芝生を植え、大きなリング状ベンチなどを設置。50人程度が座ることのできる空間設計、人の導線を意識した芝



山本理頭



鳥海 修



澁谷征司



鈴木浩一



野嶋 革



Peter Cook



淡田明美

◎デザイン学部
澁谷征司(グラフィックデザインコース)
野嶋 革(デジタルクリエイションコース)
淡田明美(ライフクリエイションコース)
鳥海 修(客員教員)
鈴木浩一(客員教員)
Peter Cook (客員教員)
山本理頭(客員教員)



吉岡恵美子



諏訪智美



オノデラユキ



吉田 潤



北波 博

◎芸術学部
諏訪智美(日本画コース)
吉田 潤(版画コース)
北波 博(学部共通)
吉岡恵美子(学部共通)
オノデラユキ(客員教員)

2014年度新任教職員



永田 純

◎ポピュラーカルチャー学部
永田 純(音楽コース)



小堤一明



柴田昌弘



若林和弘



田中圭一



junaida



大橋雅央

◎マンガ学部
柴田昌弘(ストーリーマンガコース)
田中圭一(ギャグマンガコース)
大橋雅央(アニメーションコース)
小堤一明(アニメーションコース)
若林和弘(アニメーションコース)
junaida(客員教員)

2013年度退職教職員
安藤邦洋 坪内成晃、丸谷彰、田中
充子、山田國廣の5名には、名誉教授
の称号が授与された。

◎芸術学部
青木秀明(日本画コース)
牧野浩紀(版画コース)
安藤邦洋(学部共通)

2014年度大学人事体制
理事長 赤坂博
学長 竹宮恵子
専務理事・常務理事(総務担当)
上々手良夫
常務理事・副学長(教学担当)
新井清一
常務理事・副学長(学生担当)

◎人文学部
西塔由貴子
中西宏次
西田亜希子
真下美弥子
森ひろし
森由美子
山田國廣
名越康文(客員教員)

2014年度在学生数
(2014年5月現在)
芸術学部 817名
デザイン学部 775名
マンガ学部 902名
ポピュラーカルチャー学部 156名
人文学部 784名
大学院 128名

◎デザイン学部
坪内成晃(イラストコース)
鳥海 修(グラフィックデザインコース)
丸谷彰(ライフクリエイションコース)
田中充子(建築コース)
黒川雅之(客員教員)
大西麻貴(客員教員)
Gary Page(客員教員)

◎マンガ学部
齋藤なずな(ストーリーマンガコース)
明田川進(アニメーションコース)
馬郡貴司(アニメーションコース)

武田恵司
常務理事(企画担当) 関口正春
理事 安村幸駿
理事 高瀬哲
理事 納谷廣美
理事 櫻井謙次
監事 崎間昌一郎
監事 位ノ花俊明
監事 堂山道生
芸術学部長 島本 洸
デザイン学部長 佐藤守弘
マンガ学部長・国際マンガ研究セン
ター長 吉村和真
ポピュラーカルチャー学部長
齋藤光
人文学部長 ウスビ・サコ
大学院芸術研究科長 相内啓司
大学院デザイン研究科長 葉山 勉
大学院マンガ研究科長 篠原ユキオ
大学院人文学研究科長 恩地典雄
京都国際マンガミュージアム館長
養老孟司

在学生受賞(2014年4月~大学把握分)

学部	コース・学年・名前	賞名
芸術	日本画コース4年生 濱口和歌さん	「第40回春季創画展」入選
デザイン	デジタルクリエイションコース3年生 岩城 玲さん、鎌田光咲さん、佐藤彩子さん、脇野 観月さん	「まるちゃんの静岡音頭コンテスト」グランプリ ※グループ作品
マンガ	ストーリーマンガコース3年生 手名町紗帆(ペンネーム)さん	「第13回ジャンプSQ.クラウン新人漫画賞」審査員特別賞
	キャラクターデザインコース2年生 肘原えるぼ(ペンネーム)さん	「第12回ジャンプSQ.クラウン新人漫画賞」準入選
	アニメーションコース3年生 田島 裕さん、工藤寛也さん、長谷川佳那さん、日 野杏奈さん、藤井麻菜見さん、水田裕樹夫さん	「ACジャパンCM学生賞」優秀賞 ※グループ作品

教員の活躍(2014年4月~) 展覧会、作品発表など京都精華大学の教員の活躍を紹介する。

展覧会	学部	コース・名前	展覧会名	開催期間・場所
	芸術	テキスタイルコース 鳥羽美花	「鳥羽美花展 時空を超えて—辿りついた場所より」	開催中~2014年6月8日(日) ※月曜休館 清須市はるひ美術館(愛知県清須市)
マンガ	カートゥーンコース 松井えり菜	「マインドフルネス! 高橋コレクション展 決定 版2014」	開催中~2014年6月8日(日) ※月曜休館 名古屋美術館(愛知県名古屋市)	
	客員教員 みうらじゅん	「国宝みうらじゅん いやげ物展 in NAGOYA」	開催中~2014年6月2日(月) 名古屋パルコ(愛知県名古屋市)	
	客員教員 山田章博	「山田章博 ~挿画の世界展~」	2014年5月28日(水)~6月29日(日) ※月曜休館 芦屋市谷崎潤一郎記念館(兵庫県芦屋市)	
書籍	学部	コース・名前	書籍名	出版社名
	芸術	洋画コース 佐藤一進	『保守のアポリアを超えて—共和主義の精神 性とその変奏』	NTT出版
	デザイン	グラフィックデザインコース 石川九楊	『九楊先生の文字学入門』	左右社
	マンガ	吉村和真、 客員教員 中野晴行(共著)	『再び大阪がまんがが大国に甦る日』	ブレーンセンター
客員教員 中野晴行		『まんがのソムリエ』	小学館	
客員教員 東村アキコ		『メロボンだし!』3巻	講談社	
客員教員 村上もとか	『フィチン再見!』2巻	小学館		
CD	学部	コース・名前	タイトル	レーベル
	人文	小松正史	『キョウトアンビエンス2~ピアノと水の音風 景~』	NEKOMAX RECORDS
ライブ	学部	コース・名前	ライブ名	開催日・場所
	マンガ	客員教員 みうらじゅん	「でえれ~祭」	2014年6月7日(土)・8日(日) 旧山下小学校(岡山県岡山市)
	ポピュラー カルチャー	音楽コース Bose	「高野寛 Acoustic Live」	2014年6月8日(日) SOLE CAFE(京都府京都市)
音楽コース 高野 寛		「森のカフェフェス in ニセコ」	2014年6月28日(土) ニセコビレッジ(北海道虻田郡ニセコ町)	



【PM10:42】松岡ゆかり (2013年度 版画コース卒業制作)

○訃報 佐久間正英さん 川添 貴さん

ポピュラーカルチャー学部音楽コース教員で音楽プロデューサーの佐久間正英さんが1月16日にご逝去されました。佐久間さんは2013年の学部開設と同時に本学に着任し、今春完成した「友愛館」の録音スタジオの設計にご協力いただきました。また、デザイン学部イラストコース教員の川添貴さんが3月30日にご逝去されました。川添さんは本学ビジュアルコミュニケーションデザイン専門分野の卒業生であり、06年のイラストレーションコース（現・イラストコース）立ち上げ時から本学に赴任。人材育成に情熱をかたむけ、ご尽力されました。

謹んでお二人のご冥福をお祈り申し上げます。

「佐久間さんを偲んで」

今年の4月に竣工した友愛館には、佐久間さんが考案した「良い音」を経験できるレコーディングスタジオがあります。

「学生達にとってその良い音に接するまたとないチャンスを与えられるのが良いスタジオ環境です」

「学生達がいつか自分のスタジオを考えた時に、あれを越えてやろう!」と思わせられたら良いなと」

構想段階で佐久間さんはメールでこのように述べておられました。振り返ると、佐久間さんが学生達に伝えたかったことは山ほどあったのだろうと思います。

お別れのあいさつをさせていただくためにご自宅へ寄せていただいた際、体調が優れないながらも何とか京都に来るために用意されたという車椅子を見たとき、音楽の好きな学生達や音楽の未来への熱い思いを強く感じました。佐久間さんとお仕事させていただいたのは1年と少しの間でしたが、好きなものや大切なものとの接し方を学ばせていただいたように思います。

学生達には完成したスタジオを通して、好きな音楽との接し方や向き合い方を模索してほしいなと思います。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(三浦茂治/事務局)

「川添のこと。」

川添とは3年間同じ職場にいたが、ふたたび飲みに行ったことは一度きりしかない。「昨年の初夏、東京出張の際に所用を済ませ、夕食へ行き、そのあと飲みに出た。」

そのころの我々はイラスト学科開設に向け忙しく、特に我々の中でもっとも教歴が長い川添にはいろいろ頼ることにになり、川添自身、その責任を感じながら奔走していた。そんななか、恵比寿はアメリカ橋の袂のバーで、ふたり杯を傾けながら、「大学のことも大事だけど体のことにもっと気を遣った方が良い」みたいな話をした時、川添は無言で、そしてうつむき泣いていた。あれだけ学生や教職員の前で威勢のいい男が、本当は学科立ち上げや体調のことで不安で不安で仕方がないことを知り、わたしも一緒に泣いた。どう見ても堅気に見えないオヤジふたりが、目を真っ赤にして飲んでいる姿に、若いバーテンはやれやれといった表情だった。

何も言い残さず川添は逝ってしまいが、そして川添に何もしてあげられなかった事を後悔している。せめて一人息子の道くんには、川添のことを、写真でも文章でも、どんな形でもいいので残してあげたい、伝えてあげたいと思うばかりである。

(中村光宏/デザイン学部イラストコース教員)

セイカ事典 や行

京都精華大学に関わりの深い人、事、物を解説する。

や

野外展【やがいてん】

芸術学部立体造形コース4年生が夏に行う恒例の展覧会。展示場所との関係性や、価値を問う作品を制作し、キャンパスのいたるところで作品を展示する。

ゆ

友愛の精神【ゆうあいのせいしん】

1968年の創立時より重要とされてきた、人間を尊重し人間を大切にするという本学の教育基本のもととなる考え。卒業証書には「友愛の精神を養い」という言葉が刻まれ、学問とともに人間に対する愛情や友情を本学で身につけたということが記されている。

よ

洋画コース【ようがこーす】

芸術学部造形学科の1コース。母体となる絵画コースは、1968年の京都精華短期大学美術科開設時より設置。描画の基礎や古典技法をはじめ、さまざまな美術表現を学びながら描くことの意味を追求する。

洋上セミナー【ようじょうせみなー】

1989年、人文学部開設を記念し、学部学びをそのまま船上で再現することを目的に実施された3泊4日の海上行事。神戸港を出発後、対馬・種子島にてテーマごとのツアーを実施。夜間は夜を徹して学生・教職員の討論会や、学園祭さながらの音楽イベント、白塗り舞踏などが催された。

吉本隆明【よしもとたかあき】

1924-2012。詩人、評論家。日本の言論界を長年リードし、「戦後思想界の巨人」と称される。吉本氏は本学初代学長・岡本清一の自由な思想に共感しており、本学では75年から9回にわたりアセンブリアワー講演会に登壇。「文学と現在」「戦後詩論」など様々な主題で講演が行われた。

Book Review

教員のブックレビュー



蘆田裕史

ポピュラーカルチャー学部 ファッションコース教員。専門はファッション論、服飾史、美術史。ファッション批評誌『vanitas』編集委員、ファッションのギャラリー「gallery 110」運営メンバー。

ポピュラーカルチャー学部 蘆田裕史が選ぶ「薬学部にいた僕の進路を変えてしまった」本

薬学部1年生の時に読んだ『五感の芸術論』は、一般教養科目の担当だった篠原資明先生の著書。やがて僕はこの先生のもとでファッション研究をすることにになります。篠原先生が美術誌や展覧会パンフレットに寄せた批評が集められていて、扱ったジャンルは現代美術からファッション、香りまでさまざま。香りや嗅覚というものに言及している文章はここで初めて見ましたね。篠原先生の批評から、ものの見方を掘り下げて考えるおもしろさに気づき、芸術学にも興味をもちはじめました。

着るだけ、見るだけで楽しんでいたファッションが「考える」対象にもなることを教えてくれたのは、鷺田清一さんの『モードの迷宮』。現代のファッションを、哲学・歴史・社会などの人文的な分野の著名な研究者の言葉を引

用しながら鷺田さんの考えを論じているので、文章に隙がないんです。服が人間にとってどういう存在なのかということを教えてくれます。

最後はロラン・バルトの『美術論集』。女の人をモチーフにした装飾文字を描くアーティストのエルテに関する論考があるのですが、正直僕はそれまでエルテの作品には惹かれていなかったんです。でもバルトの文章を読むと「あれ、エルテもおもしろいじゃないか」と、思ってしまう。何の興味ももたない対象に対して書かれたものが、自分の感じ方まで変えてしまう。批評ってすごいな、と衝撃を受けたことを覚えていました。

高校生の時から服が好きで、実は薬学部時代にも自分で服をつくったり、お店に置いてもらったりしていたんです。「デザイナーは無理だけど、ファッションを研究できたら楽しいだろうな」と思いつつも、一度はそのまま薬学の大学院に進みます。でも、やっぱり一番やりたいことをやってみよう、と。薬学部時代に読んだこれらの本が、芸術学やファッション批評に関心を寄せるきっかけとなり、僕をファッション研究の領域へと引きなげました。

「薬学部にいた僕の進路を変えてしまった」本

- 1.『五感の芸術論』 篠原資明（未来社）
五感を駆使して芸術を味わう美学＝技法を探る、ポストモダン以後の芸術論。
- 2.『モードの迷宮』 鷺田清一（筑摩書房）
衣服と「わたし」について哲学者・鷺田清一が語る身体論。
- 3.『美術論集』 ロラン・バルト（みすず書房）
現代批評の先端を走ってきた著者による「美術論」の集成。



Class Introduction

在学生による授業紹介

身につけた力を社会で試す授業を紹介する。

第1回 デザイン学部建築コース 「建築材料演習」

建築コース2年生の選択科目「建築材料演習」は、実際の店舗を運営するクライアントから要求された依頼に対し、デザイン・プレゼンテーション・素材の研究・検証などを行い、さらには工事まで学生が手掛けるもの。実践的な建築材料の知識を深め、アイデアを具現化できる能力を身につけることを目標としている。また、建築士受験資格を得るための科目でもある。2013年度後期にこの授業を受講した学生から、授業内容や身につけた力について話を聞いた。

今回の課題では、烏丸御池の新風館にある「Cafe Salon」から依頼を受けて、インテリアの提案・制作を約3カ月かけて行いました。オーナーからの要望は「カラフルで楽しい雰囲気になるもの」。お店のコンセプト、利用客層、今回の予算などを聞き、どんなものが提案できるかを2グループに分かれて自由に考えていきました。途中で一度、オーナーさんにプレゼンテーションを行うことになり、僕たちのグループは角材フレームでできた、組み換えが可能な多用途キューブを、もう一方のグループは一人来店する人が自由に空

間を仕切ることができるとしてグループの案が採用され、そのあとは両グループがいっしょになってキューブづくりに取り組みました。

角材フレームの素材は価格が安ければ強度が弱くなるし、高すぎると予算オーバーになってしまう。そのあたりのバランスを考えて素材選びを進めました。また、カフェではイベントが行われることもあり、時々レイアウトが変わることを事前に聞いていました。そこで、キューブが1つだと「イス」、2つだと「机」になる工夫や、メニユーやイラストが書ける「黒板」としても使える、など様々な用途をキューブに持たせました。

納品日は1月末。僕たちが目標とするキューブ数は40個。1月上旬の時点で完成からは程遠く、先生からは間に合わないだろうと言われていたんです。でも「逆をやってみよう」と（笑）。ラスト2週間は学内の作業場で、角材を切って、ビスで留める、という単純作業を朝から晩まで続けました。互いに励まし合いながら、なんとか40個を完成させることができました。

これまでの授業課題では、図面や模型を用いた「設計」までで終わって



「一人ひとり能力や得意なことが違うので、グループ作業ではそれぞれの得意分野をみつけて仕事を割り振ることが大切。その方がみんな楽しそうだったし、何より仕事が早かったです」



デザイン学部 建築コース3年生 林 啓陽さん

小さい時から工作などのものづくりが好きで、自分の家を建てたいという思いから建築コースへ。建築の勉強を始めてからもののデザインを注意深く見るようになり、なぜこの形・素材・高さなのか、と一つひとつのものに疑問をもつことが増えたという。

たので、アイデアやイメージが形になるのは初めて。でき上がった時にはみんな感動していました。制作中はクライアントの要求に答えられるか不安でしたが、オーナーも満足してくださったようではとしました。クライアントから依頼を受けてものをつくるというイメージをつかむことができて、とても重要な経験をする事ができたと思っています。

イベント紹介

京都精華大学に関係するイベントを案内する。一般の方も聴講、参加が可能。

●アセンブリーアワー講演会

開学の1968年から行われている公開トークイベント。あらゆるジャンルから一流のゲストを迎える。

- 森村泰昌(美術家)
 - 【日時】6月5日(木) 16時20分〜17時50分
 - 【場所】京都精華大学 黎明館1階 L101
- 岸田繁(ぐるり)／バンドマン／作曲家)
 - 【日時】6月20日(金) 16時20分〜17時50分
 - 【場所】京都精華大学 友愛館3階 Agoraホール
- 三宅洋平(音楽家)
 - 【日時】6月26日(木) 16時20分〜17時50分

ご支援くださるみなさまへ ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動への支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集 Web サイト
www.kyoto-seika.ac.jp/donate

●お問い合わせ
京都精華大学企画室寄付募集担当
TEL: 075-702-5201 / FAX: 075-702-5391 E-mail: kikaku@kyoto-seika.ac.jp

卒業生の方へ

●京都精華大学の情報は Facebook でもお知らせしています。
www.facebook.com/KyotoSeikaUniversity

●「木野通信」送付先住所の変更は、企画室・木野会事務局までご連絡ください。
E-mail: kinokai@kyoto-seika.ac.jp FAX: 075-702-5391

- 【場所】京都精華大学 黎明館1階 L101
- ライムスター(ヒップホップ・グループ)
- 【キング・オブ・ステージの美学】
- 【日時】7月10日(木) 16時20分〜17時50分
- 【場所】京都精華大学 黎明館1階 L101
- 【申込】不要
- 【問い合わせ先】京都精華大学 社会連携センター 075-702-5343

●デザイン学部建築学科・連続レクチャーシリーズ

- 「2014年前期プログラム可能性の空間 [空間論演習2]」
- 建築コース教員、ゲスト講師が空間をめぐる対談や講演を行う。
- 【ガラスクラフトの可能性】
- 辻野剛(ガラス作家 / Tesoo 代表)
- 【日時】5月29日(木) 18時〜
- 「地域の素材を集めて、町の賑わいを演出・創造しよう!」
- 石川秀和(株式会社エエの代表 / つくるビル運営責任者) × 片木孝治(応用芸術研究所代表 / 建築コース非常勤講師)
- 【日時】6月5日(木) 18時〜

- 「デザインのあとさき」
- 服部滋樹(Orbit 代表 / クリエイティブディレクター / デザイナー) × 片木孝治
- 【日時】6月12日(木) 18時〜
- 「アルヴァ・アアルトの空間」
- 葉山勉(建築家 / 建築コース教員)
- 【日時】6月19日(木) 18時〜
- 「文様と色」
- 嘉戸浩(唐紙師 / かみ添代表) × 福本祐樹(HAMS 取締役 / 建築コース非常勤講師)
- 【日時】6月26日(木) 18時〜

- 「インテリアデザインの可能性」
- 小坂竜(クリエイティブディレクター / 株式会社乃村工芸社 AND)
- 【日時】7月3日(木) 18時〜
- 【場所】京都精華大学 風光館3階 F331
- 【申込】不要
- 【問い合わせ先】京都精華大学 デザイン学部建築学科
- E-mail: architec@kyoto-seika.ac.jp

●デザイン学部・デザイン研究科教員 石川九楊(連続「公開」講座 「花」の構造ー花と日本人)

石川九楊(デザイン学部・デザイン

お詫びと訂正

前号に以下の誤りがありました。お詫びして訂正します。

木野通信 60号 P.16 ニュース

09 マンガプロデュースコース卒業生の金城宗幸さん原作作品が映画化決定(誤)「神様の言うとおり」 → (正)「神さまの言うとおり」

木野通信 KINO PRESS 61

木野通信 第61号
2014年5月20日 発行

京都精華大学 入試広報部 広報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL: 075-702-5197
www.kyoto-seika.ac.jp

木野通信とは、京都精華大学が発行する広報誌です。

京都精華大学

ポピュラーカルチャー学部 / 芸術学部 / デザイン学部 / マンガ学部 / 人文学部

- 研究科教員) による連続公開講座。
- 【日時】
 - 第1講 6月19日(木) 花と日本人
 - 第2講 7月17日(木) 花と日本語
 - 第3講 8月26日(木) 自然の花
 - 第4講 8月27日(木) 花と性愛
 - 毎回13時〜14時30分
 - 【場所】京都精華大学 春秋館2階 S201
 - 【申込】不要
 - 【問い合わせ先】京都精華大学 教務課 (片田・西島) 075-702-5129

●京都精華大学オープンキャンパス

すべての学部・コースで授業体験や学生作品の展示、個別相談を開催。岡山・高松・明石・三宮・天王寺・奈良・金沢・福井・名古屋から無料送迎バスを運行する。

- 【日時】6月8日(日)、7月26日・27日(土・日) 10時〜16時
- 【場所】京都精華大学
- 【申込】不要
- www.kyoto-seika.ac.jp/opencampus